



楽毅・田単 (史記の中の名将軍)

10月③のごあいさつ

山内公認会計士事務所
2022年10月21日(金)

楽毅は、中国戦国時代の燕の武将である。

燕の名君昭王(前321～279在位)の知遇にこたえて、燕のために齊を滅亡寸前まで追い込んだ。後の諸葛孔明が手本として、尊敬してやまなかった知謀と至誠の名将軍であった。

齊により一度は滅びかけた燕の昭王は人材を招こうと考え、臣下の郭隗に図った。「なんとか燕を再興したい。しかるべき人物を見出して欲しい」。郭隗は言った。「賢士を招こうとされるなら、先ずこの私、隗からお始めなさい(成句 まず隗より始めよ)。私以上の人物がこの噂を聞けば、必ず駆けつけるでしょう」。

昭王は早速郭隗のために宮殿を改築し、師と仰いで優遇した。すると果たして、楽毅が魏から、鄒衍が齊からと、優れた人材が争って燕に集まった。

昭王の28年、燕は楽毅を上将軍に据え、秦・楚・韓・魏・趙と連合して齊に進攻した。齊軍は大敗し、湣王は国都を捨て南方の莒へ立てこもった。燕軍は齊の国都臨淄に侵入し、国宝・祭器を奪い尽くした。

齊に駐留すること5年、その70余城を落とし、陥落しなかったのは莒と即墨だけとなった。

齊は、燕の楽毅のためにほとんど滅亡寸前にまで追い込まれたが、その時、名将田単の智謀によって奇蹟的な起死回生劇を演じた。

燕で名君昭王が亡くなり、恵王が即位した。恵王は将軍楽毅とはそりが合わないことを知り、田単は燕にスパイを潜り込ませ、デマを流した。「楽毅は齊に居座って王になろうと企んでいる。いつまでも齊を攻め落とそうとしないのは、齊の民心を懐かせようとしてのことだ。楽毅以外の将軍が来れば齊はひとたまりもない」。燕の恵王はまんまと引っ掛かり、楽毅を更迭した。

齊の強敵の楽毅は燕を亡命し、趙へ移った。燕軍の士気は落ち、田単はこの勢に乗じ、70余城の全てを奪回し、安平侯に封ぜられた。

安平侯田単は、名声に溺れることなく齊の襄王を盛り立て、齊には安定した時期が続いた。

司馬遷も孫子の「始めは処女の如く敵にドアを開けさせ、後は脱兎の如く守る暇を与えない」とは、田単のことを言っているのだろうと評している。

参考：史記(燕召公世家)(田単列伝)、司馬遷史記(徳間書店)